



「暫定税率が出来る事」

大田区立石川台中学校 三年 川崎 玲

大人達とキャンプに行くと、「ガソリン代が高くなった。」という会話をしていた。なんとなく気になって、理由を聞いてみると、「暫定税率って知ってる?」と言われた。初めて聞く言葉で、それがどんなものなのか、どれくらい高くなるのか気になった。

暫定税率とは、本来の税率に上乗せされる形で、一時的に設定された税率のことで、ガソリン税においての暫定税率とは、道路の建設や、維持管理などの財源を確保するために、一九七十年代のオイルショックによるエネルギー価格の高騰などをきっかけに、暫定的に税率が引き上げられたもの。ガソリンの価格は、ガソリン本体価格、石油税、ガソリン税、消費税から成っている。このうち、消費税はガソリン本体価格と石油税、ガソリン税の合計額に対して十パーセントがかけられている。つまり、消費税は石油税やガソリン税の金額分も課税されており、二重課税ではないか、という問題があげられている。

では、もしこの暫定税率がなかったら、私達の生活にどんな変化があるのか、調べてみると意外なことも見えてきた。ガソリン代には一リットルあたり約二五円の暫定税率が含まれているらしい。車を使う人からすれ

ば、大きな節約になる。トラックや配送車のガソリン代も減るから、スーパーやネットで売られている商品の値段も少し安くなる可能性もある。物価が上がっている今、暮らしの助けになる良い影響がある。ただ、ガソリン税のうちの約半分を占めていた暫定税率がなくなると、その分の税金がなくなってしまう。税金の使い道の多くは道路の維持や災害対策。お金が足りなくなると、老朽化したインフラを直すことが出来なくなるかもしれない。特に車がないと暮らせない地域では、整備の遅れが生活に大きく影響する可能性もある。一見大人達だけの問題のように見えるが、私達中学生にも少しずつ影響はある。例えば、通学路の信号やガードレールなどの安全対策に支障が出る。学校のエアコンやトイレなどの設備も税金で整えられている。予算が減れば、私達の学びの環境にも影響が出るのだ。

税金は国を支えるために必要だと分かっているけど、「暫定」という名前でも何十年も続いているのはおかしいと思う。もし続けるのなら、なぜ必要なのか、何に使われているのかしっかりと説明するべきだ。そうすれば、ただ取られている、と感じるのではなく、使われている、と感じられる。税金は国民の理解と協力があってこそ成り立つものだと思う。

今回、暫定税率について調べてみて、税金は、私達の生活とも深く関わっていると気づいた。私達はまだ直接税金を払っているわけではないが、道路や学校、公共のサービスなど、身の回りの多くのものが税金によって支えられている。だからこそ、これからもっと税について知り、自分の考えをもてるようにになりたいと思った。